

ホソハンミョウ *Cylindera gracilis* Pallas

【選定理由】

本種のおもな生息地は耕作地や河川敷などであるため人為的な影響を受けやすく、現在の生息地も局地的なものとなり個体数が非常に少なくなっている。

【形態】

体長 10～12mm の小型のハンミョウで、後翅は退化し飛ぶことができない。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市周辺、庄内川河川敷。
桑畑や果樹園など地表部が露出する林床、河川敷の草間や時には畑などの耕作地に見出される。

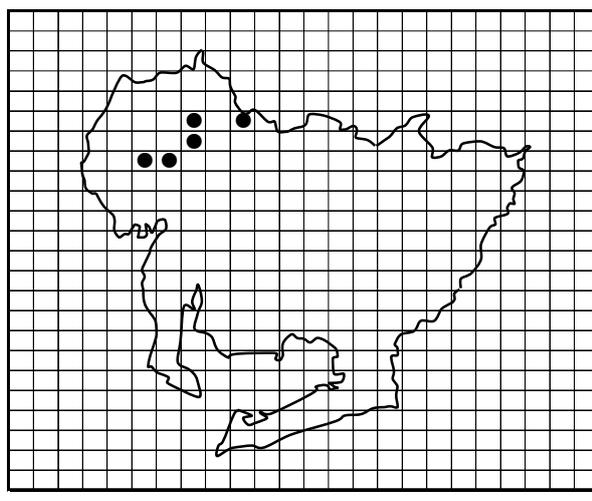
【国内の分布】

本州、四国、九州の主に低地。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国北東部、シベリア。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

本邦産ハンミョウとしては特殊な環境に生息する。多くのハンミョウ類は河川敷や海岸の砂浜、山地の道路上など日当たりの良い乾燥した場所に生息するが、本種は上記のような草地と地表が露出した部分が混在する場所を生息地とし、特に耕作地周辺などを好んで生息地とする。後翅が退化して飛べない代わりに敏速に走り回り、小動物などを捕獲して食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

耕作地では農薬の散布、河川敷では河川改修や公園緑地化により生息地が破壊されている。現在では庄内川の河川敷、特に小規模な耕作地の周辺にわずかながら生息地が残されていたが、2000年の東海豪雨以降の生息情報が得られおらず、実際にはランクより危急な状態にある可能性がある。

【保全上の留意点】

現在の生息地である河川敷をむやみに改変しないこと。特に、芝生を敷き詰めたような単調な公園整備は、河川敷の生態系にとって大きな障害となるため配慮が必要である。また、本種の良好な生息地となっている庄内川河川敷の耕作地における農薬の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
戸田尚希・長谷川道明・蟹江 昇, 2019. 愛知県の甲虫目録 3. 佳香蝶, 71 (277): 1-11.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)